

一般質問

■水産振興について
漁業者への支援の考え方は？

質 七尾市の総合計画などには6次産業化の推進を明記しているが、そもそも1次産業の持続的な進展なくして6次産業化は絵に描いた餅である。水産関係は、漁師が安定的に仕事をを行い安定した収入を確保することが極めて重要であり、国や県とさらなる連携・協力を進め支援する必要があると思うが、七尾市としての取り組みとヒラメ・クロダイの稚魚やサザエ・アワビの稚魚を放流する種苗放流事業を拡大する考えがあるか伺う。

答 七尾湾の漁業については、七尾湾漁業振興協議会が種苗放流や資源量調査、地元小学校への出前講座を行っており、富山湾側では、七尾能登島定置網漁業振興会が、SNSを活用した「いきいき七尾魚」のPRを行っている。

また、令和4年度には、海底耕運や藻場の保全のための小型の漁礁を設置し、アカガイや稚魚が住みやすい環境づくりを行う。種苗放流は、漁業者から事業拡大の要望があれば、種苗の提供元の石川県水産総合センターとの調整のうえ、要望に沿えるよう検討する。



原田 一則 議員 (灘会)



能登島須曾



江曾 ゆかり 議員 (無会派)



のと里山里海ミュージアム

一般質問

■ふるさと教育について

今後のふるさと教育の考え方は？

質 これからも続いていく七尾、未来を紡いでいく若い世代のためにもふるさと教育は重要である。今後どのようなふるさと教育を予定しているか伺う。

また、のと里山里海ミュージアムは、「ここに来れば七尾のことがよくわかる」と好評価を得ており、さらに活用が進めば、能登七尾の魅力の再発見や生涯学習につながると思うが、今後、どのように市民に浸透させ、ふるさと教育の一環として活用していくのか伺う。

答 ふるさと教育は、各学校などで、地域の特性を生かした地域学習や体験学習を地域や各種団体などと協力・連携し行ってきており、今後も継続して展開していく。

子どもだけではなく大人までが郷土の食・産業・自然などを学び共有できるワークショップなどの実施を広報的なおやチャラシで呼びかけ、のと里山里海ミュージアムをふるさと教育につながる施設としていく。また、七尾ふるさと文庫館にはふるさとの偉人・歴史・文化などが展示されている。この両施設がふるさと七尾を知る扉であり、この扉を開けることがふるさと七尾を知るきっかけになるようにしたい。

【これまでのふるさと学習の具体例】

- ・七尾城跡の見学や調査
- ・長谷川等伯や七尾の歴史・町名を学ぶ
- ・まちなか探検
- ・地域の伝統芸能や祭り体験 etc.

一般質問

■児童生徒の「オンライン学習」について
■聴覚障がい者の方への支援について

Wi-Fi環境を整えられない家庭への配慮を！

質 タブレット端末の家庭への持ち帰りに関して、家庭の事情によりWi-Fi環境を整えられない家庭が少なからずあるものと危惧している。学びの保障教育機会の均等の観点から、一人の児童・生徒も取り残すことなく、しっかりと対応すべきものと考えているが見解を伺う。

意思疎通支援事業の実施要綱と解釈の通知によれば、聴覚障がい者のコミュニケーションを保障する観点から派遣の内容は広く扱つべきとされている。七尾市も派遣対象範囲をもっと広くするよう要綱改正を望むが見解を伺う。

答 令和4年5月末に1人1台端末を家庭に持ち帰る環境の整備が完了し、6月からオンライン学習が使えるようになることから、準要保護者への就学支援費に新たにオンライン学習通信費の項目を加えしっかりと支援していきたい。

七尾市ろうあ協会から聴覚障がい者が不利益を被らないように時代に即した要綱に見直すよう要望があり、聴覚障がい者が生活する上で必要不可欠なものについては派遣の対象とすることでも要綱を改正する。会員の皆様には、まん延防止等重点措置が終了すれば説明会を開催し説明する。

【意思疎通支援者の派遣に新たに対象として加えるもの】

- ・住宅の購入や改修
- ・ローンの手続き
- ・車や大型家電の購入
- ・情報通信機器（パソコン、スマートフォン）の購入



和田内 和美 議員 (無会派)

